

Shizubi Project 8

# 世界は生きている 松藤孝一

The World is Alive: Koichi Matsufuji

2023年1月17日(火)―3月5日(日)

開館時間=10:00-19:00 休館日=毎週月曜日  
会場=静岡市美術館 エントランスホール  
主催=静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団

**観覧無料**

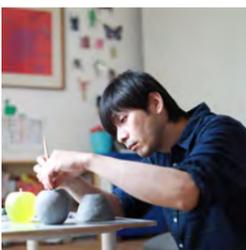
多くの人が行きかうエントランスホールの開放的な空間で、現代のさまざまな美術の姿を紹介してきた Shizubi Project。第8回は、ガラスを素材に人間と自然環境の関係性を見つめてきた松藤孝一(1973-)の作品を展示します。

溶解炉のなかで変幻自在に形を変えるガラスに魅せられた松藤は、2011年の東日本大震災で発生した原発事故をきっかけにウランガラスを扱うようになりました\*。大小様々な形の集合体は、ビルが整然と立ち並ぶ都市を思わせ、穏やかな佇まいをみせます。しかしそこに UV ライトを当てると一転、怪しく蛍光色に発光します。相反するその表情や、行き過ぎた力が加わると割れてしまうガラスの脆さはそのまま、人間の関わり方次第で恩恵にも脅威にもなりうるウランそのものの危うさへとつながります。

本展では、松藤の代表作であるウランガラスによるインスタレーション《世界の終わりの始まり》や、希ガスを閉じ込めたガラス作品、さらに気泡ガラスをレンズにして静岡の風景を撮影した写真作品や波の音とガラスを組み合わせた新作も発表します。

人間よりも遥かに長い歴史を持つ元素や自然と関り合いながら世界の深遠さに迫り、自らの立脚地を探し求める作家の試みをご覧ください。

\*作家が制作するガラス作品のウラン含有率は0.1%程度で、人体でカリウムが放出すると言われている放射線量とほぼ同程度です。



松藤 孝一 (まつふじ・こういち)

1973 年長崎県生まれ。1995 年愛知教育大学卒業後、財団法人ポーラ美術振興財団の在外研修助成により渡米。2001 年イリノイ州立大学美術学部修士課程を修了。主な個展に 2020 年妖精の森ガラス美術館(岡山)、2021 年アートハウスおやべ(富山)ほか。グループ展に 2013 年「あいちトリエンナーレ 2013 現代美術展企画コンペ」(伏見地下街/名古屋)、2020 年「第 23 回岡本太郎現代芸術賞展」(川崎市岡本太郎美術館/神奈川)、2021 年「富山ガラス大賞展 2021 [銀賞]」(富山市ガラス美術館/富山)など。現在、富山市立富山ガラス造形研究所准教授。富山と名古屋を拠点に活動。



《世界の終わりの始まり》2021 ウランガラス、ギフチョウの標本、テーブル、照明装置(アートハウスおやべ/富山)

[関連イベント]

アーティストトーク

日 時: 1月17日(火) 11:00 -  
3月5日(日) 14:00 -  
各 40分程度

会 場: 当館エントランスホール

参加料: 無料

申込不要(当日直接会場にお越しください)

「Shizubi Project 8 世界は生きている 松藤孝一」

広報用写真申込書 Fax:054-273-1518 Mail:info@shizubi.jp

静岡市美術館 写真貸出担当:大庭・岡田 Tel:054-273-1515

「Shizubi Project 8 世界は生きている 松藤孝一」の広報用写真(データ)を希望される方は、本用紙に必要事項をご記入の上、上記FAX番号、もしくはEメールでお申込みください。



1



2



3

- 1. 《世界の終わりの始まり》2021 ウランガラス、ギフチョウの標本、テーブル、照明装置(アートハウスおやべ/富山)
- 2. 《見えないものが見えたとき》2017 ガラス、希ガス、水銀、無電極放電装置
- 3. [手前]《風が波を奏でる》2022 ガラス、コンクリートブロック、スピーカー、波の音 [奥]《空を旅する》2022 フォトアクリルマウント(ギャラリーO2/金沢)

ご希望の画像番号に  
○をお付けください

※ 展覧会チラシ画像の提供も可能です(クレジット不要) ※掲載作品は参考図版です。実際の展示とは異なります。

御社名 \_\_\_\_\_ (ご担当者名)

貴媒体・番組名 \_\_\_\_\_ 掲載予定日

〒 \_\_\_\_\_

ご住所 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_

備考 \_\_\_\_\_

### 広報用写真の使用に関するお願いとご注意

- \*1 作品に文字やほかのイメージを重ねることはできません。部分使用やトリミングされる場合は事前に確認をさせていただきます。
- \*2 ご使用の際は、必ずクレジットを明記してください。
- \*3 作品の画像のご使用は本展の告知を目的とした記事・番組に限ります。また、本展終了後の掲載、放送などは原則としてご容赦願います。
- \*4 デジタル画像は全てjpgです。ご送付の手段についてはメール送信となります。
- \*5 ご掲載紙・誌を1部御寄贈いただけますようお願いいたします。

【プレスリリースのお問い合わせ】担当:伊藤 広報担当:大庭、岡田